

令和3年度 新潟県立近代美術館協議会 評価報告

令和4年7月11日

【美術館活動全体の協議会評価】

令和3年度 新潟県立近代美術館、万代島美術館におけるそれぞれの取り組みについて2点述べたいと思います。まずコロナ禍において対面で行うプログラムにおいて不自由さが生じたことと同時に、新たな気づきが生まれたと思います。

企画展の久保田成子展において、海外からその関係者が来ることが出来ずオンラインにてのやり取りになったとのこと。通常なら作品等を前にしての意見交換が行われるのですが、オンラインのためにそのやり取りが時差の関係で深夜になってしまい、最終的な展示に至るには相当な時間を有してしまったようです。しかしこの難局を学芸員の努力によってカバーして、久保田成子展は好評を博した良質な展覧会になったことは言うまでもありません。

また、この状況下鑑賞者から如何にして美術館に来てもらうかが問われました。例えばギャラリートークや鑑賞講座と言った今まで対面が当たり前とされた事業をオンラインにて実施することにより、今まで美術館に足を運んでもらえなかった人にもその面白さが伝わりと言うプラスの面も生まれました。今後もこのような取り組みを積極的に進めて欲しいと思います。

それとともに、新潟県立近代美術館、万代島美術館両館が取り組んでいる新潟アートリンクは、県内の美術館が連携して新たな美術館像を描く行為として大いに評価できます。今後ともアイデアを出し合いながら、この取り組みが全国の美術館の手本となるよう期待しています。

このコロナ禍、新潟県立近代美術館、万代島美術館においては企画展の延期、あるいは鑑賞者の健康管理を心がけることを含め様々な苦労があったと思います。その苦労の中でしっかりと光が差し込んだことも事実です。そんな光を未来に届けるよう美術館を皆で応援したいと思います。